

# たましま協同病院だより

## 玉島協同病院

倉敷市玉島柏島5209-1

電話(086) 523-1234

http://www.tamakyo.com/

発行責任者 青木弘人

〔病院理念〕玉島とその周辺の地域で暮らす人々が、疾病・障害のあるなしにかかわらず、その人らしく輝いて暮らせ、安心して一生を終えることを支援する医療機関でありたいと願います

### 「玉島循環器疾患連携の集い」に 進藤医師が座長、パネリストとして参加

6月30日、ホテルセントイン倉敷にて「増えている心不全患者を玉島地域でどのように対応していくか」をテーマに「第1回玉島循環器疾患連携の集い」が開催されました。

対面形式にて開催され、玉島地区の病院や介護施設の医療・介護スタッフ70名の参加がありました。当院からは10名、心不全チームを中心に参加し、進藤院長は座長、パネリストとして登壇しました。基調講演として、玉島中央病院循環器内科部長の三好医師より、「当院における循環器疾患連携の取組み」と題し、玉島中央病院での心不全疾患の取組みだけでは不十分で、玉島地区の病院や医院、介護施設などが連携を密に組み、取組む必要性が提起されました。その後、特別講演として、倉敷中央病院循環器内科部長の川瀬医師より、「地域の心不全診療の向上に際して玉島地区に期待すること」と題し、倉敷中央病院頼みではなく、玉島地区で心不全治療、リハビリ、生活指導が完結できるように連携の取組みが必要で、玉島地区は循環器専門医が複数おり、その土壌がある地区で、

でも期待している旨を講演されました。その後、三好医師、川瀬医師の他、小野内科医院にて心不全リハビリを行っている小野医師、そして、当院進藤医師の4名が登壇し、「玉島における循環器疾患連携の展望」というテーマで会場も巻き込んだディスカッションが行われました。ディスカッションでは、引き続きこのような会をきっかけに顔の見える連携を通じてできることを共に考えていくことの必要性が確認されました。講演、ディスカッションを聞き、玉島地区で心不全連携をうまく行えば、増えている心不全の重症化を抑えられると感じました。また、そのポテンシャルがこの玉島地区にはあるとも思いました。この集いを機に玉島協同病院心不全チームも玉島地区の心不全関連施設とより深い関係構築を積極的に、ともに心不全改善に向けた取組みを共

同で行えるようにしていきたいと思えます。

(地域連携室 八谷直博)



ディスカッションの様子(右から2番目が進藤医師)

## 第65回自治体学校 in 岡山 記念講演より、周辺地域の課題を考える

7月22日～24日に第65回自治体学校が岡山で開催されました。

初日にウェブで参加し、奈良女子大学の中山徹教授と杉並区の岸本聡子区長の記念講演を視聴しました。

中山教授の講演では安保三文書の改定から社会保障の削減、子育て支援策の遅さや地方政治など話されました。特に少子化対策については、今対策が取られている子どもへの支援では人口減少に歯止めがきかない。出産世代とされる30歳代の女性の減少は続いており、今対策を強化しても30年はかかるため人口減少が確実に進むことなど分かりやすく講演頂きました。通信環境にトラブルが続出し、内容がかなりコンパクトになってしまったのが残念でした。

岸本区長の講演では耳なじみのない言葉かもしれない「コミュニティ」の広がりについて講演されました。このコミュニティとは、語源は地方自治体の意であるコミュニティから来ています。コミュニティには運動、地方政治、地域経済の三要素があり、お互いに影響し合い政治経済を変革する動きになっています。新型コロナウイルス感染症やロシア

によるウクライナ侵攻などにより、国家や公共の意味が問われている今、世界各地の自治体では、公共サービスを住民の手に取り戻す「再公営化」の動きや地域経済を自主的に再興する動きや、より直接民主主義的な政治の実現を目指す動きが起こっています。昨年行われた杉並区長選と区議選で起こった投票率の上昇には、女性や若者の投票行動が背景にあり、特に区議選では48名の定数に対し、24名が女性区議となり、新人が15名を占めたうえ、得票上位4名が全て女性であったことから「政治の景色が変わる」と表現されました。

今、当院周辺地域で起きている高齢化率の上昇と交通手段の問題についても、「地域課題」＝「地方自治の課題」として自治体との連携・協議と当事者である地域住民との協調、対話をすすめる必要があると感じました。

(事務長 青木弘人)



玉島協同病院は今後も部屋代はいただきません

玉島協同病院は24時間急患対応をしています

# 平和のために私たちにできること

7月24日、国民平和大行進が玉島入りし、当院から10名が参加しました。

この行進は核兵器廃止を目指し、1958年以来、毎年8月に広島へ向かって思いを繋げて全国で歩く伝統の行進です。日本政府は唯一の被爆国、戦争放棄の憲法を持つ国として、核兵器の廃絶と国連憲章にそった紛争の平和解決を呼びかけるべきです。平和活動の一環として、この国民平和大行進が始まりました。ルートは、東京をスタート地点として、ゴールの広島まで歩きます。当院はマルナカ新倉敷店からスタートし、玉島支所を目指して40分ほど歩きました。



行進の様子

今年も、多くの職員や患者さんに協力して

私は今回、国民平和大行進に初めて参加しましたが、当院の職員以外にも多くの方が参加されており、平和を訴えかける熱量に圧倒されました。猛暑の中、「こんにちは、平和行進です。」と水分補給しながら歩き続け、正直体的に疲れましたが、ゴールに着くと達成感でいっぱいになりました。玉島支所に到着すると、所長や代表の方から激励のメッセージをいただきました。行進に参加された方は、「これからも自治体や行政と一緒に、1日も早い核兵器禁止条約に批准する政府」を



玉島支所での集合写真

いただいた千羽鶴を当院からお渡ししました。折り鶴は5千羽を超え、大きな千羽鶴が完成しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



当院作成の折り鶴

地域連携室 日笠 未久

平和な暮らしを実現するには、国民一人ひとりが声を上げることが大切です。今回の行進も微力ではありますが、

## いざという時に行動するために

7月21日に、消防訓練を行いました。

訓練実施前に参加者全員が会議室へ集まり、まずは避難器具オリロー（ロープを使って地上まで降りる避難器具）の使用説明、そして今回の訓練内容の確認を行い、それぞれの持ち場につきました。

訓練がスタートし、火元確認、初期消火（失敗設定）を行った後、患者役の避難誘導へ移ります。今回はコロナ病床での火災設定だったので、火元確認時にも特別なマスク

クヤ手袋を装着しての作業となり、避難場所も他の患者と離れた場所を待機してもらうなど、いつもの訓練とは少し違う対応も必要となりました。初めて参加したスタッフも多く、訓練後の反省会では「手順は把握していたが、いざ始めると思っていた行動が出来なかった」等の意見が出ていました。

消防訓練の後は、消火器や消火栓の取り扱いについての指導があり、実際に放水訓練も行いました。



放水訓練の様子

に放水訓練も行いました。消火栓の放水では想像以上に水の勢いが強く、二人がかりでホースを固定して行う場面もありました。今回も消防訓練を通して皆さんの気づきがあり、これからもいざという時に最善の行動が出来るよう努めていきたいです。

地域連携室

守分 香

## 加集万里子のお料理教室

シリーズ 176

### ミルフィーユステーキ



こま切れの牛肉を重ねて、ステーキのように焼きました。焼きながらソースをからめています。

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| <b>材料</b> (2人分)         | <b>ソースの材料</b>      |
| ♥牛肉(切り落としなど).....300グラム | ♥ケチャップ.....大さじ1    |
| ♥にんにくのすりおろし(お好みで)....少々 | ♥ソース(何でも).....大さじ2 |
| ♥片栗粉.....大さじ1〜4くらい      | ♥しょうゆ.....大さじ1     |
| <b>付け合わせ</b>            | ♥砂糖.....大さじ1       |
| ♥レタス、トマト、ポテトサラダ、パスタなど   | ♥水.....大さじ2        |
| あるもので                   | ♥バター.....小さじ1      |

### 作り方

- 肉を皿かバットに広げにんにくのすりおろしを所々のせ、うすく片栗粉をふり肉を重ねる。これを繰り返し3〜4段の厚みにし、手で上から軽く押さえてなじませる。大きかったら好みの大きさにカットする。
- バター以外のソースの材料を合わせておく。
- フライパンに肉を並べ、中火で熱していく。焼き色がついたらへらを使って返し、蓋をして中まで火を通す。フライパンに出た油をペーパーでふきとり、合わせておいたソースを加え、肉にからめたらバターを入れ余熱でとくす。用意した皿に盛り付けて完成。

ソースは焼き肉のたれなどお好みの物を使ってもいいです。水を入れるのは肉の間に片栗粉を使っているため、すぐに煮詰まるのを防ぐためです。

玉島協同病院はカルテを開示しています